

午後Ⅱ試験

全問に共通して、設問に素直に答えている論述が多かった。また、問題文の引用で文字数を費やし、内容が薄くなってしまっている論述も少なかった。一方で、問題文に記載してある観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの論述は引き続き散見された。問題文に記載した観点や事例は、例示である。自らが実際にシステムアーキテクトとして、検討し取り組んだことを具体的に論述してほしい。

問 1（システム方式設計について）では、システム要件をハードウェア、ソフトウェア及び人手による作業をどのように組み合わせて実現したかというシステム方式の設計結果を具体的に論述することを期待した。システム要件をどのように実現したかについては多くの受験者が論述していた。しかし、システム方式の設計そのものではなく、既に設計されたシステム方式を前提としたソフトウェア方式やソフトウェアの機能設計に関する論述が散見された。システムアーキテクトには、業務を情報システムの視点から整理する役割が求められることを認識してほしい。

問 2（業務の課題に対応するための業務機能の変更又は追加について）では、業務課題とその解決のために必要になった情報システムの業務機能の変更又は追加の内容を、具体的に論述することを期待した。情報システムの変更又は追加の内容については具体的に論述されているものが多かった。しかし、情報システムの変更が業務にどのような効果をもたらすかまでは言及していないなど、業務の課題を認識できていないと思われる論述が散見された。システムアーキテクトには、対象業務や業務目的を正しく理解し、情報システム開発に反映する能力が求められることを認識してほしい。

問 3（組込みシステム製品を構築する際のモジュール間インタフェースの仕様決定について）では、システム要件を満たすインタフェース仕様を題材として、ライフサイクルを考慮したシステム設計についての実践的な論述を期待した。全体的に適切に論述されているものが多かった。しかし、一般的な仕様決定方針を述べるにとどまり、システム特有の条件に対する考慮に欠けるものや、個別の課題解決の羅列となり、システム全体が見渡せない論述も散見された。